

主な財源（右項目で該当するものに○印を付けて下さい。複数回答可）	① 行政の補助事業	③ 自己資金（会費収入を含む）
	② 企業・民間団体等からの助成	④ その他（ ）

7 活動の詳細 （3500文字程度／A4用紙2～4枚程度、本WORD様式の行数を増やして記入ください。）

① 組織の概要（目的、設立経緯等）

- ・ビジョンは、
【農山漁業の魅力都市へ、都市のチカラを農山漁村へ都市と田舎を人で結び地域と人とを元気する】
- ・ミッションは、
『農林水産業を支援するとともに、農林水産業に携わりたい人に実践的な学びの場を提供する』

1) 問題認識・課題

都市生まれ育った私は、農山漁村や農林水産業とは縁が無く、大人になるにつれ、自然や農林水産業に関心を持つにつれ、農林水産業に触れてみたいという考えが起りましたが、身近に機会が無く、ある時参加したグリーン・ツーリズム（農林水産業と農山漁村生活の体験機会）によって、農林漁家の子弟でなくても農林漁業や農山漁村を楽しんだり、支援したりすることができることを知りました。

農山漁村においては、過疎化、高齢化、少子化の流れが一気に進み、かつて実り豊かな農地であったところも耕作が放棄されています。

農林漁業は、重要な仕事であるのかかわらず、身近に交流機会や学ぶ機会が多いとは言えない状況もあり、都市で農林漁業を学び人は、農林漁業の現場により深く知りたい人への橋渡しの役割が必要と考えました。

まずは体験してもらい、農業とはどのようなものなのか体感してもらおう仕組みを講座型の参加スタイルを通して都市と農村を行き来する仕組みを考えたのです。

2) 事業のイメージ

より多くの方が農業に触れ、将来を考えるきっかけとして、参加しやすい方式の講座にすることにより、農業への応援団を増やすことも視野にいれています。

もっとも重要なのは、農山漁村地域の人々の理解や協力を得て、その土地を次世代以降に繋げるために、地域にあった農林漁業の仕組みを尊重し、学びながら.....

初期のころは、自分の思いや考え方を上手く伝えられず悪戦苦闘しました。あるときに、.....
そして、地域農業、集落活動のリーダーである●●●さんと出会い、.....

直接指導していただけることになって、本事業はスタートすることができました。
.....

② 主な活動内容（活動内容が多岐にわたる場合は、都市と農山漁村の交流に関する活動を中心に記述）

本講座型事業は、次の3つのアイデアからなっています。

1) 農業を学び、実践に役立てるための実習をプログラム化する。

農業の基本を学びつつ、実際の農地で作業
を.....
.....
.....
.....

2) 参加者を集めるとともに、参加者自身が農作業を通じて、地域の人に溶け込むためのふれあいの場の提供
地元の協力していただける農家の指導の下、実習する参加者を募るために、

3) 農業を中心としたコミュニティビジネスを視野に入れ農村生活の練習を行う。

さらに、新型コロナウイルス感染症による交流事業の中止・停止による新たな地域づくりを推進する地域関係者に協力して、テレワーク、サテライトオフィスなど、オンライン等を活用した交流事業への必要性の高まりやITに強い仲間の強みを活かして、関係人口創出の一環として、ふるさと納税のための特産品開発支援や移住・二地域居住に向けた情報発信等を行政と連携しつつ支援した。

・ふるさと納税のための特産品開発支援は、

移住や二地域居住に向けた情報発信は、

③ 活動の成果及び効果

●●●● (体験講座)

●●地域にて●●●●参加プログラムをこれまで約●●回実施。のべ参加人数●●●●人

(参加者のほとんどは東京圏からの参加であるが、その他、地方の大学生や企業の参加がありました。また、これまでは、アメリカ、フランス、中国出身者も参加しています。リピート率はおよそ2割です。)

新型コロナウイルス感染症の拡大により2020年度は体験講座を中止にせざるを得ず、その代わり始めた当該地域の特産品販路開拓支援のネット通販には、かつての講座参加者の多くが支援の意味も込めて購入や紹介の手伝ってくれました。さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大により、リモートワークが推進されていることから2度目の緊急事態宣言が出る前に、当該地域にリモートワークの滞在をお試しする参加者も現れており、関係人口の創出の機会としても、当プログラムが貢献することができたと感じています。)

地域農業のリーダーの●●●さんの指導と地域の人々との協働作業への参加機会を得ることができて、まだ大きな成果が出ているとは思いませんが、これまで、農業や森林について関心をもつ機会が少なかった〇〇市の子供たちや親御さん、学校関係者にもイベントなどに参加していただき機会も増え、一緒に農作業を行った後の食事会などを通じて、今後の取組への協力も得られることができました。

また、企業や都市部の福祉関係者からの農業イベントへの参加要請や協力依頼も徐々に増え、地域の農家お母さんたちのグリーン・ツーリズムの出番も増えてきています。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、高齢者の多い農山漁村地域では、本体験講座も一時中止、延期しておりますが、一部の参加会員とともに作業した農産物のネット通販なども好評をいただき、終息後の農作業を楽しみにまっています。

「試行期間」

- ・2018年、第1期体験講座 秋プログラム名●●●●●

「本格実施」

- ・2019年、第2期体験講座 プログラム名●●●●● (年間を通じて3回実施)
- ・2020年、第3期体験講座 プログラム名●●●●● (年間を通じて4回実施予定を新型コロナウイルス感染症拡大により、関係者のみにより2回のみ実施)
- ・2021年、第4期を実施する予定であったが新型コロナウイルス感染拡大を避けるために中止

④ マスコミ紹介及び過去の受賞歴について（過去に受賞した、あるいは新聞、雑誌、テレビ番組等、メディアで紹介されたものがあれば、番組名、見出し等をお書きください。）

▲過去の受賞歴は、特に無し

▲マスコミ紹介事例

- 新聞2018年12月（「○○○○○○○○」○○○○○で、○○○○が○○○）
- 新聞2019年8月（「○○○○○○○○」○○○○○で、○○○○が○○○）
- 新聞2020年6月（「新型コロナウイルス感染症にも負けない」○○○○○が○○○○○で○○○）
- ラジオ2019年5月 ○○○○の活動好調
- WEBマガジン2022年10月 こんな時代にも○○○○○で将来に備える○○○○○

（関連写真の貼り付け）

写真1. 実践している農場

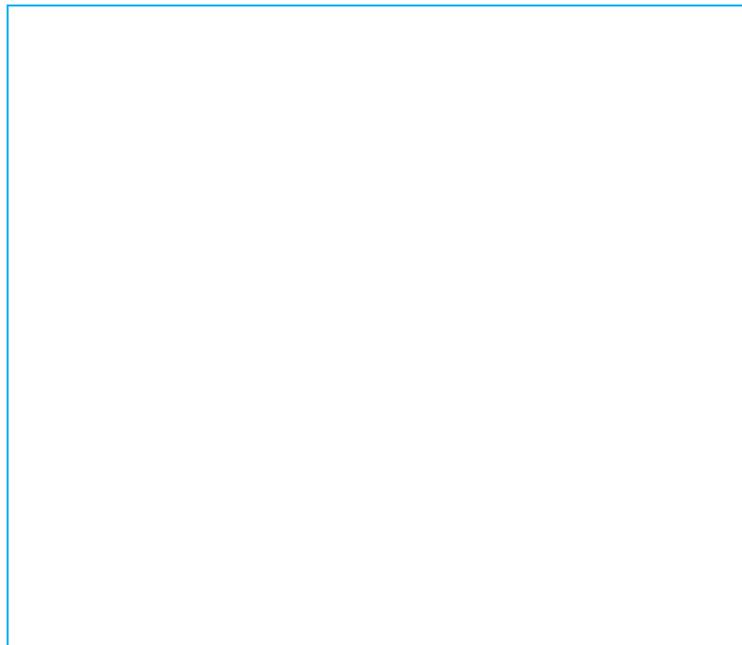


写真2. コロナ禍により、オンラインで農業の説明をする農業リーダーの●●●さん



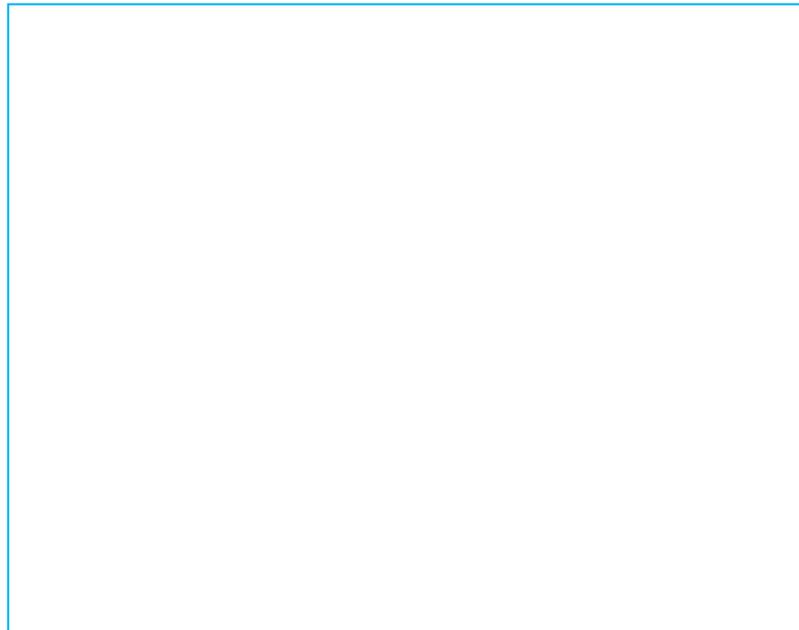
写真3. 昨年度の体験講座の実習（農作業）風景



写真4. 本年度、コロナ禍により講座を中止したため、新たに取り組んで、特産開発とネット通販の様子



写真5. 昨年度の講座実習生の集合写真



★ 記載された内容の利用目的及び第三者への提供

(必ず選択してください)

応募用紙の記載内容、添付写真、参考資料などは、「オーライ！ニッポン大賞」(団体・個人)の審査のためにのみ使用し、審査に直接関わりのない第三者への提供は行いません。ただし、受賞された方については、その方の応募用紙の記載内容、添付写真、参考資料などを、受賞者とその活動内容のご紹介のため、マスコミ等第三者への提供を含め使用させていただくほか、本事業の「オーライ！ニッポン大賞」の活動目的である農山漁村の共生・対流の幅広いPRのために、パンフレットや冊子、ホームページ等への掲載に使用することがあることについて、ご了承いただけますか？

はい いいえ

★ 写真の添付について

応募内容に関する具体的な活動の様子や実績が分かる写真をご用意ください。枚数は5枚程度に絞り込んでください。データは紙焼きも可能としますが、解像度の高い鮮明な写真で活動の魅力が伝わるものをお送りください。(データ容量が大きい場合はファイル転送により送信も可能です。)

★ 参考資料の添付について

応募された活動内容の様子分かる資料(活動内容が紹介された記事、活動内容に関連するパンフレット等)があればご提供下さい。また、団体の場合、応募団体の組織の規約(法人の場合は定款)、直近の事業報告書(収支決算書を含む)があれば添付して下さい。資料はコピーでの提出、またはデータ化(PDF)してのメール添付により提出して下さい。